

多職種で進める医療機器管理のDX化を目指して

臨床工学科 ○春田加奈絵 馬場彩 大津理恵子 大坪季壮 小野裕明

### 【はじめに】

医療DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、医療の質や効率を大きく向上させるために、デジタル技術を積極的に取り入れることを指し、患者の利便性向上や医療従事者の負担軽減、さらには医療全体の持続可能性が期待されている。病院には、多くの医療機器や備品が所有されているが、その管理は購入部署ごとに行っており、また、その管理台帳は、エクセルソフトや紙媒体による単独のプラットフォームであり、経済性や利用効率、消耗品在庫管理の観点からみても効率的とはいいがたかった。2024年9月に医療機器管理システム（アルカディア社：CEIA）を導入し、これらの改善を図ることを目標に多くの部署と連携しシステムの構築を進めている。今回、これらの取り組みを進める中から、医療機器の点検業務について報告する。

### 【取り組み】

CEIAの管理用ソフトウェアを事務部（総務課、経理課、情報システム課）、看護部管理、診療技術部（診療放射線科、臨床検査科、リハビリテーション科、臨床工学科）の8部署（計65台）のPCにインストールし、検査機器は臨床検査科、放射線機器は診療放射線科、リハビリ機器はリハビリテーション科、そのほかの機器はすべて臨床工学科で、管理する医療機器と医療備品の登録を行った。登録機器には1次元バーコード付きのラベルを貼付した（臨床工学科、臨床検査科、事務部）。一般備品は事務部で登録を行った。

医療機器においては、定期的に行う機器の点検のスケジュール登録をした。また、日常点検は毎日実施するものであり、チェックリストを機器ごとに作成し、簡便に使用できるように合格や不合格のチェックボックス式とした。医療機器には、設置型医療機器（大型のもの）も多くあり、CEIAシステムのアプリ版をタブレットにインストールして、点検を実施した。

### 【結果】

今回初めて病院内の多くの部署で医療機器と備品が共有のプラットフォームで台帳化された。その中で、医療機器の日常点検をチェックリスト化し、医療機器管理システムに保存することで、ペーパーレス化や過去の点検記録の閲覧や出力などが簡便に行え、点検データも生涯保存される。また、タブレットによる医療機器の日常点検は、医療機器管理システムの可動域が大きく拡大し、利便性が高まった。

### 【考察】

医療機器管理システムは、臨床工学技士が、医療機器管理を行うために開発されたものであり、その他の部署では不便となる機能も存在する。今回のタブレットを用いた日常点検は、臨床工学科では業務負担の省力化につながっているが、その他の部署での問題点への対策と変革が必要である。また、多くの部署でタブレットによる日常点検を実施するには、追加費用が必要となる。

### 【結論】

臨床工学科では、CEIA導入後日常点検の利便性は大きく向上したが、他部署でもより良く活用できるシステムにするには、メーカー側のソフトウェアのアップデートと、ユーザー側の既存文化の変革意識が必要である。